

1. 【研究の概要図】

この応募用紙に記載する研究の概要を以下の枠内に図式や分かりやすい色を用いて、概要図を作成してください。

※様式の変更・追加は不可（以下同様）

研究課題名	表情知覚および Sense of Agency が感情に及ぼす影響
顔面フィードバック仮説 (Tomkins, 1962) 実験参加者の表情を統制した顔面フィードバック仮説に関する先行研究での実験方法 - 他者の表情表出写真を見せて模倣させる (e.g., Kleinke, Peterson, & Rutledge, 1998) - 情動喚起映像を見たときに表出される表情を誇張, 抑制させる (e.g., 野口・吉川, 2009) こうした表情の模倣, 誇張, 抑制といった実験手法を用いた場合 “自分で表情を変化させている”という主観的体験が感情に影響を与えている可能性がある この主観的体験は, Sense of Agencyと関わりがあるのではないかと考えた Sense of Agency (SoA) の定義 (Haggard & Chambon, 2012) 表情とSoAの関係を詳しく検討するために, 表情の変化から顔面筋の動きを取り除きたいと考えた 吉田他 (2015): 表情変形システムを構築 Webカメラで観察者の正面顔映像を撮影 → PCでリアルタイムに顔映像に表情を付加 → 表情付加後の映像（鏡像）をディスプレイに提示 この表情変形システムを改変 参加者がマウスを動かすことで, ディスプレイ上に提示された映像内の自身の表情が変化する 本研究では, 表情のフィードバックから顔面筋の運動を除去し, 「マウスを動かす(手の運動)+視覚情報」とした 表情変化の認知が重要 (吉田他, 2015) この繰り返しが 「自分の顔が今変わっている」という感覚を強め, より強く自覚的に自身の表情を認識するようになり, 感情変化の強化につながるのではないかと 表情による感情の変化を, SoAは大きくする可能性がある 本研究ではこの可能性を検討する	